

土地改良区を元気にする情報紙！

# 水土里ネット パワーアップナビ



## 〔目次〕

- 地域と共に・・・小山市美田東部土地改良区
- 合併後を訪ねて・・・芳賀町土地改良区
- 県からのお知らせ・・・郡司農林水産大臣が県内の土地改良施設を視察人・農地プラン作成中です！

2012/11

Vol. 2

TAKE FREE

# 地域と共に

このコーナーでは、地域の農業振興や地域社会との協働・交流活動に取り組んでいる土地改良区を紹介します。

取材先：水土里ネット美田東部  
(小山市美田東部土地改良区)

所在地：小山市大字渋井161-2

理事長：植野 洋生

設立：昭和26年3月31日

地区面積：847ha

組合員数：548名

水土里ネット美田東部では、昨年度から地区内の農地を利用して田んぼアートを実施しています。(表紙写真)

田んぼアートとは、田んぼをキャンパスに見立て、現代の米と「古代米」と呼ばれる色の異なる稲を使って、巨大な絵を作る活動です。

今回は、この取組を中心にお話を伺いました。

## ◆田んぼアートを始めようとしたきっかけは？

⇒3年前から農業用水水源地域保全対策事業を実施しており、大光寺頭首工の見学会や鮭の遡上見学会等のイベントを開催しています。田んぼアートもその事業の一環として、昨年度から始めました。

このようなイベントを開催している根本的な考えは、**土地改良区の活動をPRしてその役割を地域の皆様に知ってほしい**、ということです。



今回の田んぼアートでは六種類の稲を使用しました

## ◆田んぼアートで工夫したところは？

⇒多くの人を集めて事業に参加してもらうことです。具体的には、ケーブルテレビや新聞への登載、地域子供会に参加をお願いすること等により、周知を図りました。また、題材には身近なものを、と考えおやまブランド公認キャラクターの「おやまくま」を用いたところ、メディアの注目も大きくなり、作業に参加

される方も増えました。

## ◆どのような準備をする？

⇒最初にCADで図面を作り、その図面を基に測量しながら農地に下書きをしていきます。下書きには「葦」を使いました。葦を使った理由としては、最終的に枯れるので、田んぼアートが完成した時に邪魔にならないからです。

下書きが完成した後は、近くの大学生等のボランティアや地元の小学生を集め、田植えをしていきます。下書きと田植えで3日間かかりました。



準備の様子

(左上) 葦を使った下書き

(右上) ボランティアによる田植え

(下) 田植えが完了したとき

## ◆田んぼアートの評判は？

⇒7月の見学会では約200人も参加を得ることができました。事業初年度の参加者は、役員の家族や知人が多かったのですが、今年は地域外の方々もたくさん参加してくださいました。

また、アンケートを実施したところ、地域内外問わず「ぜひ毎年行ってほしい」というような**良い評価を**いただいています。



見学会の様子

(左) 水ヨーヨーすくい



(右) はしご車での上空からの見学

### ◆今回のような活動は誰が企画する？

⇒まずは事務局でアイデアを出し、具体的にまとまったら役員に相談します。その後、理事会や総代会で承認を得て、実施していきます。

今回取材に応じた事務局の皆さん



### ◆地域のつながりを深めることはできましたか？

⇒土地改良区の組合員や総代が以前よりさらに事業に協力してくださるのはもちろん、近隣の土地改良区の方々にはイベント時に色々な協力をし

ていただき、つながりが深まりました。

### ◆協働活動を実施して良かったと実感したことは？

⇒目標を掲げて達成したことですね。田んぼアートもそうですが、その他のイベントでも達成感があると嬉しいですし、モチベーションにもなります。

### ◆今後も活動を続けますか？

⇒これからも活動は続けたいと思います。農業用水水源地域保全対策事業は今年が最終年度ですが、今回のような事業には積極的に参加したいですね。

また、教育面での活動、例えば近隣の小学校との協働活動などもできれば良いと考えています。

## 合併後を訪ねて

「合併後の土地改良区運営ってどうなってるの？」そんな疑問をお持ちの方も多いはず。このコーナーでは、合併した後の土地改良区運営を紹介します。

取材先：水土里ネット芳賀町（芳賀町土地改良区）

所在地：芳賀郡芳賀町祖母井1020  
（芳賀町役場農政課内）

理事長：黒崎 健

設立：平成17年6月13日

地区面積：2,695ha

組合員数：2,465名

水土里ネット芳賀町は、平成17年度に8つの土地改良区が合併し設立されました。

現在は、総代50名、役員25名（理事22名、監事3名）、職員5名の体制で土地改良区の運営に取り組んでいます。

8土地改良区が1つの土地改良区としてまとまるための工夫について取材しました。

### ◆合併に伴い組合員数も地区面積も大きくなり、事務運営も大変になったのでは？

⇒圃場整備事業を実施している地区がありますし、色々大変な部分もあります。しかし、現在12ある各地区委員会が運営に協力してくれています。

何か問題が生じた場合は地区委員長に相談して、事務局と地区委員会で問題解決を図ります。

### ◆合併直後に事務運営上の混乱はありましたか？

⇒合併前に推進協議会を立ち上げたのにあわせて、8つの土地改良区の事務処理を一元的に行っていたのでスムーズに合併できたと思います。

### ◆合併のメリットを感じるのとはどんなときですか？

⇒行政単位の合併により町との連携強化が図られ、より効率的で計画的な事務運営ができるようになりました。現在は芳賀町役場の農政課内に事務所を設置したのですが、隣には町の農業委員会の事務所があり、密に連携を図ることができます。

また、役員数が全体として減少したので、運営費の削減もできました。



土地改良区の事務所の隣には町の農業委員会があり、業務上の利便性も高い

### ◆日々の業務で工夫している点は？

⇒何点かあります。まず、資料のデータ化です。賦課金や施設等の各種台帳や地区の航空写真などをデータ化しているところです。これによる事務の効率化を狙っています。

また、組合員の目線に立つこともとても重要です。組合員の方が事務局に相談に見えることがあります。

ますが、まずはお話を聞いて現場に行くなどして、問題解決に向けて一緒に考えます。

### ◆運営上の課題は？

⇒これも何点かありますが、施設の維持管理方法の統一化です。地区ごとに維持管理方法が異なっているので、それらをまとめていくことを考えています。

### ◆今後の運営の抱負をお願いします

⇒限られた職員数で最大限の組合員サービスを提供できるようにしたいです。来年度から職員が1名減になり、4名体制で事務運営することになります。それでも質を落とすことなく、しっかりと運営できるようにしたいですね。

## 県からのお知らせ

### ■郡司農林水産大臣が県内の土地改良施設を視察されました

10月4日(木)、郡司農林水産大臣が那須塩原市内の再生可能エネルギーを使った小水力発電施設や大田原市内の経営体育成基盤整備事業地区などを視察されました。

午前中は、那須野ヶ原発電所等を、午後は経営体育成基盤整備事業金田北部2期地区を視察されました。



圃場整備後の説明を受ける郡司大臣

### ■人・農地プラン作成中です！

現在、県内の市町で人・農地プランを作成中です。

このプランは、地域農業の担い手を明確にして、その担い手を中心とした地域農業のあり方を描いたもので、10月末時点で、県内の14市町で作成されました。プランは、一度作成されて完成ではありません。地域の継続的な話し合いにより、随時見直しを図りながら、徐々にプランの内容を充実させていくことが重要です。

土地改良区の皆様には、地域の話し合いによるプラン内容の充実や農地集積活動への積極的な参加・協力を期待しています。

**人・農地プラン**

**地域で話し合い、市町村が決定**

- 今後の中心となる経営体
- 中心経営体への農地の集積
- 地域農業のあり方

### ～編集後記～

水土里ネットパワーアップナビの第2号を無事に発行できました。小山市美田東部土地改良区も芳賀町土地改良区も、役職員の方々が土地改良区のためにご尽力されていることがとても印象的でした。今回取材に快く応じていただきました両土地改良区の役職員の皆様に感謝の意を表しまして、編集後記とさせていただきます。ありがとうございました。

今後も分かりやすい紙面を目指し、水土里ネットパワーアップナビを発行していきます。紙面の感想や取り上げてほしい題材等がありましたら、下記連絡先までご意見をお寄せいただければ幸いです。